



平成 24 年 5 月 9 日

各 位

会 社 名 三菱瓦斯化学株式会社  
代表者名 取締役社長 酒井 和夫  
(コード番号:4182 東証第一部)  
問合せ先 広報 I R 部長 北川 元康  
(Tel: 03-3283-5041)

## 新中期経営計画「MGC Will2014」について

当社はこのたび、2012 年度（平成 25 年 3 月期）から 2014 年度（平成 27 年 3 月期）の 3 ヶ年を実行期間とする新たな中期経営計画「MGC Will2014」をスタートさせました。

### 1. 新中期経営計画「MGC Will2014」の位置付け

2009 年、経済の先行きに不透明感が増す中、当社は今後も持続的で且つ力強い成長を遂げていくためには、長期的視点に立った経営計画の立案と実行が必要と判断し、「2021 年におけるありたい姿」を描きました。前中期経営計画「MGC Will 2011」（2009 ～2011 年度）はその目標に向けた第 1 ステップで、今回の「MGC Will2014」はその第 2 ステップと位置付けています。

### 2. 前中期経営計画「MGC Will 2011」の振り返り

残念ながら「MGC Will 2011」につきましても、世界金融危機や急激な円高、東日本大震災といった不測の外的要因もあり、数値目標を達成することはできませんでした。しかしながら期間中、中核事業を中心に積極的な投資を実行しており、今後これらの投資が当社グループの収益に寄与してまいります。

(連結指標)	09 年度実績	10 年度実績	11 年度実績	11 年度計画
売上高 (億円)	3,845	4,510	4,522	5,500
営業利益 (億円)	40	233	90	400
経常利益 (億円)	73	363	261	500
ROA (%) *	1.4	6.5	4.5	≧9.0
D/E レシオ	0.62	0.66	0.66	≦0.6

\*ROAは経常利益ベース

### 3. 新中期経営計画「MGC Will2014」の概要

#### ◆ グループビジョン

MGC グループは全ての事業活動において CSR の実践を徹底し、グローバルな舞台で、「独自技術に立脚した特色と存在感のある優良化学会社」として、持続的成長を目指します。

◆ 基本方針

- 中核事業の強化
- 不採算事業の再構築
- 新規事業の創出と育成の加速
- 持続的成長を支える〈質〉の向上

当社は、メタノールといった基礎化学品から、脱酸素剤「エージレス®」に至る機能製品まで、幅広い事業を展開しております。メタノールでは、サウジアラビア・ベネズエラ・ブルネイに原料天然ガスを確保した生産拠点を設け、世界各地に販売・物流できる体制を構築しています。またエレクトロニクスケミカル・シートフィルム・BT系製品・脱酸素剤「エージレス®」といった機能製品では、顧客と情報のすり合わせをしながら差別化された製品を投入する開発体制を構築し、それぞれの分野で「存在感」を発揮しています。このような中核事業は、既に持っている強みを今後も活かし、さらにM&Aといった手法も加えながら事業基盤を一層強化してまいります。

一方で不採算事業につきましては、従来の枠組みの中で収益化を図ってきましたが、想定を超える厳しい経済環境と競合状況の下、構造改革が必要であるという結論に至りました。対象となる事業毎にプロジェクトチームを結成し、構造改革に向けてあらゆる可能性を検討の上、成案がまとまり次第、実行に移します。

新規事業の創出と育成の加速については、従来の研究開発のあり方に加え、組織横断的に社内資源を集結させた「未来事業創出プロジェクト」による開発も進めます。開発のターゲットは、医療包材ソリューション・次世代電池材料・新規構造材料他で、2021年にはプロジェクトにより生み出された事業で売上高1,000億円を実現します。

持続的な成長を遂げるためには、あらゆる面から経営の質的向上を図る必要があります。持続的成長を支える〈質〉の向上として、グローバル人材の育成、製造現場力の向上、低環境負荷生産の実現、コストダウン、グループ全体の経営効率改善などを重点課題として取り組んでいきます。

4. 目標とする財務指標

連結指標	目標値 (2014年度)
売上高	6,000億円
営業利益	400億円
経常利益	600億円
ROA (総資産経常利益率)	9.0%

<前提条件>

為替： 80円/US\$

原油 (Dubai)： 2012年115US\$/bbl、2013年115US\$/bbl、2014年120US\$/bbl

以 上